

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900694
法人名	医療法人 岩村外科胃腸科
事業所名	グループホーム よしの里
所在地	宇和島市吉田町魚棚20-5
自己評価作成日	平成27年2月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は利用者様にとってホームが居心地の良い居場所となるよう利用者様一人一人が生き生きと日々過ごして頂けるよう努めている。

玄関はスロープになっている。玄関横の畑には、ネギや高菜・玉ねぎ等が植えてあり、利用者や職員で手入れをしている。玄関入口や居間、廊下に、利用者や職員で作ったお雛様が飾ってあり、行事時の利用者の写真や利用者手作りのパッチワーク壁飾り等も飾られている。居間は床暖房になっており、温度計、加湿器を設置して管理している。中庭にはベンチが置いてあり、天気の良い日に日向ぼっこをしている。
町内会に加入し、地域の方と一緒に公園掃除や地方祭の職立てにも参加している。回覧板にて年4回「よしの里便り」を配布して、事業所の取り組みを地区の方に知ってもらえるよう取り組んでいる。又、年1回、近くにある銀行や公民館ロビー展に、利用者の手作りの品や活動パネルを展示している。地方祭では鹿の子踊りや牛鬼が駐車場まで来てくれて、利用者は「間近で見られてうれしい」と喜ばれている。婦人会の方々が年2回、事業所の敬老会とお節句の折に訪問してくれて、踊りや歌を披露してくれている。又、手遊びしたり利用者と一緒にお茶の時間も持たれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	よしの里
(ユニット名)	ユニット1
記入者(管理者)	
氏名	中村 竹子
評価完了日	27 年 2 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を基にミーティングや日々の申し送りのなかで利用者様が日々の生活の中で気持ちがおちつかれるのはどんな場面なのか、何を生きがいにされているか、その生活を維持していく為にはどのようにしていけばよいかなど、話し合い職員間で共有し合えるよう努めている。	
			(外部評価) ミーティングや朝夕の申し送り、又、日々のケアの中で理念を共有しており、利用者をご自宅で生活していた時のように、食事や起床時間等、それぞれに合わせて支援できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的に行われている、散歩、買い物、ドライブ等により積極的に地域に出向くようにしている。	
			(外部評価) 町内会に加入し、地域の方と一緒に公園掃除や地方祭の幟立てにも参加している。回覧板にて年4回「よしの里便り」を配布して、事業所の取り組みを地区の方に知ってもらえるよう取り組んでいる。又、年1回、近くにある銀行や公民館ロビー展に、利用者の手作品や活動パネルを展示している。地方祭では鹿の子踊りや牛鬼が駐車場まで来てくれて、利用者は「間近で見られてうれしい」と喜ばれている。婦人会の方々が年2回、事業所の敬老会とお節句の折に訪問してくれて、踊りや歌を披露してくれている。又、手遊びしたり利用者と一緒にお茶の時間も持たれている。以前、外出時利用者を見失った時、地域の方から連絡をいただいたことがあり、管理者は「顔なじみは必要」と強く感じていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域で開催される認知症の講演会には参加し、認知症の方の理解や支援の方法を学んでいる。運営推進会議やボランティアの方々との交流を通じて認知症を理解して頂けるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市町村担当者の参加を頂いている。その中で情報の交換をしたり、不明な点については気軽に相談が出来る体制にある。介護相談員や社会福祉協議会の傾聴ボランティアの受け入れもしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、近所の方や近隣に住むご家族にも1名ずつ交代で参加してもらっており、事業所から活動等の報告と併せて、熱中症予防やインフルエンザについての勉強会を行っている。さらに、法人内居宅ケアマネジャーから地域状況の説明や、法人内の介護施設の状況説明等もしている。年1回は、敬老会と併せて会議を開催している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の場でホームの取組みを報告し、その中で出た意見をサービス向上の為に活かせるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、介護保険制度について説明等してもらっている。又、市主催の研修会の紹介や、災害発生時の対応等について助言がある。今年度より、市内グループホームの管理者が集まり、意見交換する機会を自発的に作って交流を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修に参加し、ミーティング時に話し合う機会を持ち、学び、意識するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 昼間は鍵を掛けない支援に努めているが、外に出たがる利用者の状況等を見ながら、1階玄関を施錠する時がある。利用者の不安定な様子が見られる時には、調理にかかわる等して気持ちを逸らすことができるよう支援している。特に言葉の拘束に注意しており、「座ってください」「これはしてはいけません」等、命令や制限する言葉を使わないように気を付けて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加しどういったものが虐待にあたるのかを理解し、見過ごしや防止することなどを、職員間で情報の共有を図るようつとめる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は権利擁護事業所や成年後見制度について理解しており相談等があれば支援できる体制にある。他職員にもミーティング等で話し合い理解し意識を高めるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり居室などホーム内を見学して頂きパンフレット等での説明をして納得をして頂いている。不安、疑問点を聞き説明をして理解納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見、不満は言葉のみではなく、態度等からも察し、職員同士で話し合い改善に努めている。家族とは行事や面会時に意見を聞き質の向上に努めている。ご意見箱を設置し気軽に相談して頂けるよう配慮している。 (外部評価) 月1回、利用者の近況報告に写真を添えて、ご家族へ送付している。年末の大掃除や事業所周辺の草引き・衣替え時期の衣類交換と居室の掃除・誕生日等には、ご家族の協力を得ており、面会時も含め、ご家族の思いや要望を聞くような機会を作っている。ご家族の都合のよい時間帯に会いに来てもらえるように、夜間の通用口にも配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員の外部研修参加を推進している。運営推進会議やミーティングで研修報告をおこなうとともに、運営に関する意見や提案を聴く環境を整えている。	
			(外部評価) 野菜作りや手芸等、得意な職員が担当して活動できるような仕組みを作っている。毎月のミーティング以外でも職員は、気付いた時にいつでも提案や意見等を出し、その都度話し合いながら取り組みをすすめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、資格取得の奨励に配慮している。また、管理者は、勤務表を作成する際、勤務形態、希望や家庭の事情にも配慮している。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の質の向上を図るために全職員が年二回以上研修を受講できるよう配慮し研修報告はミーティングや運営推進会議で報告を行い全職員が内容の把握が出来るようにしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 二か月に一回の運営推進会議では、他のホーム職員と相互に参加し合っておりグループホーム連絡会にも参加している。又、外部研修で他の施設の職員と話せる場を持つるよう努めている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居する前にご本人やご家族より、いままでの暮らしぶりや要望等詳しくお聞きし、入居後の不安を少しでも少なくし、安心して頂けるよう努めている。入居後はセンター方式のシートを使用しご本人の思いに寄り添うようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が来初された際は話易い雰囲気でご不安に思われたり求められている事柄をゆっくりにお聞きしている。又、ホームでの様子をお伝えすることで安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人とご家族から現在の状況や生活歴、今、希望されている事柄を詳しく伺いまず必要とされる支援を見極めその方に合ったサービス内容の説明を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事全般において一緒に仕事をしたり出来る事柄においてはおまかせし出来る喜びを一緒に共有している。野菜作りや収穫も一緒に行うことも多い	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での行事への参加の呼びかけを行っており参加して頂いた際、ご家族の方に近況報告を行っている。又、ご家族へ毎月ポストカードの送付をホーム内での様子をお伝えしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前から利用されている美容院へ行ったりして、馴染みの関係が途切れる事のないよう支援に努めている。以前住んでおられた地域にドライブに出掛けたりしている。 (外部評価) 利用者の馴染みの美容室を利用できるよう支援している。利用者によっては、ご家族が来られてカットしてくれるようなケースもある。帰りたい気持ちの強い方には、以前住んでいた場所までドライブするようなこともある。又、ご家族がお墓参りに付き添うようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個別に話を聴いたり、食事やおやつの時間などは利用者同士がともに楽しめるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等により退所された方へのお見舞いをし、ご家族にお会いする機会があれば様子を伺ったり、相談しやすい雰囲気作りに努めている。他の施設に入居された方には近くに行った折に立ち寄り面会している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中で、好みや思い、希望を見出しその気持ちに添うことが出来るよう支援している。又、センター方式の活用、家族の方の話も参考にして支援するよう努めている。 (外部評価) 入居に当たっては、ご家族や以前のケアマネジャーから、生活歴や暮らしへの思い等についての情報収集に努めている。利用者に関する事で気付いたことがあれば、申し送りノートに記入するようになっており、さらに、ミーティング時に情報交換を行っている。利用者の中には、新しい利用者が入居すると、「自分の方を見てほしい」という気持ちが強くなる利用者があるが、職員はご本人の気持ちに寄り添い、お茶を楽しむ時間を作ったり、買い物に誘って気分転換ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式の活用、家族の方の聞き取りにより、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の把握に努めている。又、面会者(親類、友人)にも話をきかせて頂けるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の一日の生活リズムで過ごしていただけるように努めている。少しでも普段と違った様子が見受けられれば職員間で話し合うようにしている。毎日のバイタル、排泄チェックを行っており少しの変化も見逃さずに対応出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の意向を十分に聴きカンファレンスやミーティングを行い、ご本人がよりよく暮らす為の介護計画を作成している。ご家族が面会に来られた際には意見を伺い介護計画に反映している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>担当職員が中心となり、ご家族と連絡・相談しながら、職員間で話し合って計画を作成している。利用者一人ひとりについて、職員で定期的に話し合っでモニタリングを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々にケース記録を作成し、日勤、夜勤帯とご本人の状態を記録している。食事摂取量、バイタル、排泄等も記録し介護計画の見直しに役立っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>買い物や散歩、美容院等個別に外出の支援を行い、ご本人の要望、希望に添えるように支援している。又、ドライブなどで住んでいた地域に出かけている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カラオケ、押し花、年2回のお掃除等ボランティアの方々の協力を得て行っている。年2回消防署の協力を得て避難訓練も行っている。公民館、伊予銀行のロビー展に利用者の作品を出展している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居前のかかりつけ医がある場合は家族、本人の意向に応じて継続的受診できるようにしている。又、協力医療機関においては24時間連携しており安心した医療が受けられる。</p> <p>(外部評価) 母体医療機関が隣接しており、早急な対応ができることは利用者やご家族の安心感につながっている。入居前のかかりつけ医に継続して診てもらうことも可能であるが、入居時に母体病院に変更するようなケースも多い。受診時は職員が付き添い、結果をご家族へ連絡している。夜間時、利用者の気になる状態があれば用紙に記入して提出すると、医師から指示がもらえるようになっている。歯科受診は、月1回、訪問診療があるが、必要時時には受診できるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師とは、日常的に連絡し、健康管理についていつでも相談できる体制にある。また、二か月に一度看護師による研修を行っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院前に、家族、本人、医療機関と話し合い連携を取りながら、安心して入院生活が送れるようにしている。入院後は、可能な限り早期に退院できるように情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時及び、重度化、終末期の初期の段階に本人、家族の意向を聴き、ホームとしての方針を明確にし共有している。状況に変化があった場合にはその都度、柔軟に対応できるように努めている。広報を地域に配布や地域の行事に参加し、入居者様の顔を覚えてもらっている。</p> <p>(外部評価) 入居時、終末期の対応等について説明し、希望を聞き取っている。母体が医療機関であることや法人内に特養施設があることから、ご家族は、入院や施設入所を希望することが多く、これまでに事業所で看取りを支援したような事例はない。</p>	<p>終末期のあり方については、利用者の希望の把握にも取り組まれてほしい。理念にも照らし合わせながら、どのような支援ができるか職員で話し合ってみてはどうだろうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時に備えて二カ月に一回協力医療機関の看護師による緊急時対応研修会を開催しており、すべての職員は緊急時の対応を学んでいる。緊急時マニュアルを作成しており適切な対応が出来るように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回消防署と地域の方々の協力を得て、避難訓練を行っている。その上に毎月ホーム内で自主避難訓練を実施し、全職員が避難できる方法を身につけている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っており、回数を重ねるごとに、消防署員の認知症の理解も深まっているようだ。津波発生時は、隣接する母体医療機関の4階まで階段を使って上がり、避難することになっている。階段が急なことや階段を上れない利用者がある等の課題もあり、対応策を職員で出し合っているところである。水やインスタント食品・おむつ・毛布等は、母体医療機関に備えている。	火災、地震、津波や夜間の災害等、いろいろな場面を想定し、又、利用者の状態や状況変化を見据えて、避難訓練を重ねてほしい。又、地域との協力体制作りに向けては、地区の消防団等にも協力いただいてはどうだろうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーや、自尊心を傷つけないように一人一人の人格を尊重し、声かけの方法など配慮している。気づきがあれば職員間同士でも申し送りやミーティングで話し合うようにしている。 (外部評価) 利用者を名字で呼ぶようにしているが、楽しく過ごすカラオケやレクリエーション時等には、下の名前と呼ぶようなこともある。お茶の先生をしていた利用者には、「先生」と呼ぶようなこともある。ご自分の下の名前を忘れてしまう方には、時々名前と呼ぶようにしている。トイレへの声かけは他者が気づかないように自然に行うよう心掛け、失禁時にはそっと着替えを促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で想いや希望を言って頂けるような環境作りや、声かけに努めている。また、一人ひとりの表情や背景からもくみ取れるよう日々職員間の話し合いを密にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 昔ながらの一日のリズムを大切にするために一人一人の生き方をアセスメントし、昔から楽しみにされていた事を希望によって取り入れて行く。又、職員側のペースに、ならないようにミーティングや申し送り等で振り返りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい衣服をご本人、ご家族等から聴くなどして把握するように努めている。また、ホームでは季節に合わせた服を選択できるように声かけしたり工夫している。美容室は馴染みの店に行くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理、後片付け等して頂いている。誕生日、母の日、敬老の日、お正月など、行事や、季節には希望に合わせた食事をとりいれている。 (外部評価) 野菜は産直特売所で購入し、牛乳と卵は近所のスーパーから配達してもらっている。利用者が食材を切ったり、洗ったり、味付け等にもかかわることができるよう支援している。誕生日は、ご本人のお好きなメニューでお祝いしており、「食べたいものを言ったら作ってもらうのがうれしい」と喜ばれている。朝食にパンを好まれる方には対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の栄養士が献立を作成している。個別の状態を把握しそのひとに合った量を把握している。食べる量や水分量が一日を通じて確保できるように支援するとともに一人一人、ファイルを分けて個別記録を作成し記入している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行っている。月一回協力医療機関より歯科医師、歯科衛生士が来所し、ホーム職員と利用者により口腔ケアの指導を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握するために排泄チェック表に時間をつけ、尿意、便意の定まらない利用者にも、時間を見計らい声かけをし誘導を行っている。声のかけ方ではご本人の自尊心を傷つけないように常に気をつけている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表から排泄パターンを把握し、「トイレに行きますか」と静かに声掛けして支援している。利用者が席を立った時に「トイレですか」と声をかけたり、ご自分でトイレに行く方には、時間を見計らって様子を見に行くようにしている。中には、トイレの戸を開けたまま使用する方もあり、職員がそっと閉めに行くようなこともある。足が不安定でトイレに間に合わない利用者には、夜間、居室にポータブルトイレを置いて支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) なるべく薬に頼らないように個人に合った適度な運動、水分補給、植物繊維、乳製品を増やしたり工夫している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の希望に合わせて、時間やタイミング等個別に入浴を行っている。</p> <p>(外部評価) 週3回、午前中の中の入浴となっているが、夜勤帯以外であれば、時間、回数を利用者の希望に合わせることが可能となっている。排泄失敗時や夏場には、シャワーを浴びる等して気持ちよく過ごせるような支援に努めている。利用者が入浴を嫌がるような場合は、午後からや次の日に声かけして誘うようにしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個人の生活習慣を大切に、ご本人の状態や希望に合わせて休んで頂いている。眠れなくて困っている方には、日光浴や日中の活動量を増やし支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人に薬を手渡す際には説明が出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 今までしておられたこと、得意なことなどを理解し食事作りや食器洗い、掃除や洗濯等、役割意識が持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良い日は戸外へ出て日光浴や、散歩をしている。ご家族の方にも協力して頂き、一緒に外出している。	
			(外部評価) 近所のスーパーに食材の買い出しに行く際、利用者も一緒に行っておやつを買うようなこともある。隣接の母体医療機関へリハビリに行く際には、地域の方達とおしゃべり等して、楽しい時間になっている。お花見には、法人の車で出かけており、弁当等も持参して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望や力を踏まえて支援している。買い物では自分の財布より支払いをして頂いている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話をかけたいときや手紙を出したいときは気軽に出来るよう環境を整え支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の場の居間では快適に過ごせるように季節の花を生けたり、季節感を感じられるような壁面を飾ったりしている。	
			(外部評価) 玄関はスロープになっている。玄関横の畑には、ネギや高菜・玉ねぎ等が植えてあり、利用者と職員で手入れをしている。玄関入口や居間、廊下に、利用者と職員で作ったお雛様が飾ってあり、行事時の利用者の写真や利用者手作りのパッチワーク壁飾り等も飾られている。居間は床暖房になっており、温度計、加湿器を設置して管理している。中庭にはベンチが置いてあり、天気の良い日に日向ぼっこをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間である居間にはソファを置いて手作り座布団を備えている。庭にはベンチがあり天気の良い日には利用でき、おもいおもいに過ごせるようにしている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や持ち物を持ち込んで頂き、今までと変わらなく過ごせるようにしている。居室内に家族の写真やご自分の写真、面会に来られた方との記念写真を貼り殺風景にならないように努めている。	
			(外部評価) 畳ベッドとクローゼットは備え付けになっており、衣装ケースやタンス、愛用していた椅子、テレビ等を持ち込んでいる。入居時にご自分で名前を書いたプレートを、入口の引き戸に吊るしている。来訪した音楽活動家のことがたいへん気に入り、「忘れてはいけないから」と入口に写真を貼っているような方もあった。又、室内にご家族の写真や手作りのペーパーフラワー等を飾っているところもあった。ご家族が用意してくださったモップで掃除をする方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立した生活を目指し、共用の場であるローカ、トイレ、浴室、階段には、手すりを設置している。移動の際には十分に確認して使用して頂いている。	
			(外部評価)	